

## 令和4年度生野区区政会議 第3回全体会

### 1 開催日時

令和5年3月16日（木） 19時02分～21時00分

### 2 開催場所

生野区役所6階大会議室

### 3 出席者

（区政会議委員）19名

三木委員、船方委員、小出委員、川本委員、永松委員、宮崎委員、加藤委員、藪本委員、古本委員、大藤委員、北口（充）委員、塚本委員、川中委員、山納委員、森本委員、橋野委員、池原委員、洪委員、倉本委員

（大阪市議会議員）4名

木下議員、武議員、原口議員、山田議員

（大阪府議会議員）1名

角田議員

（その他関係者）3名

多田様、伊藤様、新井様

（生野区役所）16名

筋原生野区長、櫻井副区長、上原こども未来担当部長（教育委員会事務局兼務）、小原企画総務課長、杉本区政推進担当課長、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、松村安心まちづくり担当課長、堀川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、三根生こども未来担当課長（教育委員会事務局兼務）、宮城窓口サービス課長、山崎保険年金担当課長、谷上保健福祉課長、清水地域福祉推進担当課長、松藤生活支援担当課長、大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

### 4 委員に意見を求めた事項

（1）令和5年度生野区の取組み（案）について

資料1 令和5年度生野区の取組み（案）－生野区運営方針－

参考資料1 令和5年度生野区関連予算（案）

参考資料2 生野区将来ビジョン2023-2026（案）

参考資料3 生野区地域福祉ビジョン2023-2026（案）

参考資料4 パブリック・コメントの実施結果

参考資料5 いただいたご質問と区の考え方

参考資料6 令和4年度区民アンケート結果（抜粋）

（2）その他

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは、皆様、お待たせいたしました。ただいまから令和4年度第3回生野区  
区政会議全体会を始めさせていただきます。

本日は委員の皆さん、ご多用の中、ご参加いただきましてありがとうございます。  
私、事務局の生野区役所総務課の杉本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。  
着座にてよろしくお願いいたします。

それでは、初めに本日の出席状況、傍聴及び会議運営、会議録の作成についてご  
報告いたします。

本日の会議は、委員定数30名に対しまして19名のご出席があり、定数の2分の1  
以上の出席ということで有効に成立してございます。また、本日の傍聴者は0名と  
なっております。

続きまして、条例第8条第1項に基づく市議員の皆様のご出席について、50音  
順でご報告申し上げます。

なお、議員の皆様につきましては、この後にご退席されるということでもよろしく  
お願いしたいと思います。

木下誠議員です。

○木下議員

こんばんは。お疲れ様でございます。

○杉本区政推進担当課長

武直樹議員です。

○武議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

原口悠介議員です。

○原口議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

山田正和議員です。

○山田議員

こんばんは。お疲れ様でございます。

○杉本区政推進担当課長

また、同じく第2項に基づく関係者のご出席についてご報告いたします。

角谷庄一大阪府議会議員です。

○角谷議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

同じく関係者といたしまして、歴代の議長等を務められました皆様のご出席についてご報告申し上げます。多田達弘様です。

○多田様

こんばんは。よろしく申し上げます。

○杉本区政推進担当課長

伊藤廣美様です。

○伊藤様

こんばんは。よろしくお願ひいたします。

○杉本区政推進担当課長

以上となっております。

なお、区政会議に関する本市の規則によりまして、出席された方のお名前、発言内容等が公開されます。後日、事務局にて会議録を作成しまして、区役所のホームページ等で公開いたしますので、録音や撮影についてご了承のほどお願い申し上げます。

次に、本日の区政会議の趣旨と配付資料についてご説明いたします。

本日の会議では、令和5年度の生野区の取組につきまして、これまでの取組を踏まえながら、委員の皆様にご意見やご議論をいただきたいと考えてございます。

続いて、本日の資料についてご説明いたします。左肩に当日用とございます令和4年度第3回生野区区政会議全体会の次第をご覧ください。本日の会議資料を記載してございます。

まず、事前に送付しております資料についてとなりますが、資料1としまして、令和5年度生野区の取組み（案）というA4横の資料がございます。

続いて参考資料1として、令和5年度生野区関連予算（案）というA4縦の資料がございます。また参考資料2としまして、生野区将来ビジョン2023-2026（案）と、そして、参考資料3として、生野区地域福祉ビジョン2023-2026（案）というA4縦の資料がございます。こちらはいずれも今後4年間の生野区の目指すビジョンを方向性として取りまとめたもので、これまでの区政会議で議員の皆様にもお示しして、あわせて、広くこの間、意見公募も行ったものでございます。

次に本日配付の資料が幾つかございます。まず、参考資料4といたしまして、生野区将来ビジョン及び生野区地域福祉ビジョンにかかるパブリック・コメントの実施結果というA4縦の資料がございます。こちらは先ほど申し上げた二つのビジョンに関する意見公募の結果と、区の考え方を記載したものとなっております。

次に参考資料5として、この度、委員の皆様から頂いたご質問と区の考え方がございます。

そして、参考資料6として、令和4年度生野区政に関する区民アンケート結果（抜粋）がございます。こちらは区の年末・年始にかけて、一部の区民の皆様からアンケートを書いていたものを集計いたしまして、その中から主なものを抜粋したものとなっております。正式には新年度に入ってから公表いたしますので、あくまで速報版としてお配りしているところでございます。

資料たくさんございますが、以上となっております。資料がそろわれてない場

合は、事務局からお持ちいたしますのでよろしくお願いいたします。

事務局からの説明は以上となります。

それでは、ここで、関係者といたしまして、新井様にご出席いただいています。

○新井様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

それでは、これにて議員の皆様はご退席とさせていただきますので、どうもありがとうございました。

それでは、資料の説明は以上ということで、これからの進行は三木議長のほうにお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○三木議長

皆さん、こんばんは。議長の三木です。

ただいまから令和4年度第3回区政会議を開催します。区政会議は区民が主役として地域運営に当たるために、地域の課題解決のためどう取り組むべきか、また、課題解決に必要な行政とのパートナーシップとは何かを建設的に提案する趣旨の会議となります。よって委員の皆様の個人の感想ではなく、地域を主体的に運営する見方に立って、意見を交換し議論を深めるという姿勢で積極的なご発言をお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、筋原区長からご挨拶をお願いいたします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。区長の筋原でございます。年度末のお忙しい中、またお仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、ご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

コロナも少し落ち着いてきまして、少しずつ従前の様子を取り戻しつつある中でございますが、本日、来年度この4月からの取組予算についてご説明を申し上げます。内容については居場所と持ち場があるまちへという、そういう目指し方については、前任の山口区長のときからの形を継承もしながら、異和共生、異なったまま和やかに共に生きるという考え方を、区政全てを貫く基本的な理念といたしまして、暮らしても楽しい、遊んでも楽しい、そして働いても楽しいまちづくりを進めるための今後4年間の目指すビジョン施策について、皆様からご意見も頂戴しながら整理をしてまいりました。既存の取組もございまして、既に取組を始めているものもございまして、来年度から新たな取組も含めて本格的に稼働をしていきたいと思っております。

生野区は、区民の方々とても人情味もありまして、そして温かく、また、時に激しく熱いところもございまして。区民の方々、そして活動されている企業、各団体の方々の非常にご努力、実行力もあり、本当に私も去年の4月から実際に生野区に住んで働かせていただきまして、本当に魅力にあふれたまち、ポテンシャルにあふれたまちだと思っております。

そんな中で、2年後には大阪・関西万博も開催されますので、これも好機と捉えまして、このまちづくりを積極的に果敢に進めてまいりたいと考えております。

本日も是非皆様方の忌たんのないご意見を頂きまして、次の取組につなげてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。

○三木議長

はい、ありがとうございます。それでは議事に入ります。お手元の会議次第に沿いまして、議事1、令和5年度、生野区の取組案について区役所からの説明をお願いいたします。

○岩垣担当係長

それでは、事務局からご説明させていただきます。前のスクリーンをご覧ください。皆様に事前にお送りしております資料1の中から、令和5年度の主な取組についてご紹介させていただきます。

生野区の区政運営を進めていくに当たっては、これまでも皆様にご紹介してきました異和共生、つまり、異なったまま和やかに共に生きるという考えかたを根底に取組を進めてまいります。その上で区政の3本柱として、多文化共生、子育て教育環境の整備、そして地域経済活性化を掲げておりますので、これらの取組を中心にご紹介させていただきます。

まず、1本目の柱である多文化共生についてです。目指す方向性として、様々な国や地域とつながる外国人住民と共生し、世界につながる生野区として、まちの活性化につながるような取組を進めてまいります。

皆様もご存じのとおり、生野区は人口の約2割が外国人住民で、その割合が全国で最も多いまちとされており、60近くもの国や地域の方が暮らすまちとなっております。そこで、生野区では外国につながる住民をはじめとする、全ての住民が安心して暮らせるまちを目指した取組を進めてきました。具体的には優しい日本語での情報発信をはじめ、優しい日本語の普及に向け、イベントでのブースの出店、御幸森小学校跡地でのクロッシングフェスの開催支援など、様々な国や地域の方と交流できる機会の提供などに取り組んでまいりました。

こちらは区民アンケート結果からの引用です。上段の区役所からの情報発信が外国人に配慮されているかという問いに対して、赤枠の肯定的な回答が半数を超えています。また、下段の優しい日本語については、知っていると答えた方は20パーセントと、認知度の向上はまだまだこれからの課題です。

令和5年度は、これまでの優しい日本語の取組に加え、いくのパークで開設される御幸森多文化共生センターの運営団体や、区内にある大阪府立わかば高校などの関係先と連携して、交流を図る取組などを進めてまいります。

続いて、2本目の柱となる子育て教育環境の整備についてですが、教育環境の整備やつながりの場づくりを通じて、子育て世代に選ばれるまちを目指した取組を進めていきます。就学前、就学中の子育てをしている方を対象とした、平成30年の子ども、子育てに関するニーズ等調査では、子育てが地域に支えられていると感じないとする回答が3割近くとなっております。

また、児童虐待相談件数については、過去5年間で平成30年度が最も多く、令和元年度にいったん減ったものの、令和2年度、3年度と少しずつ相談件数が増えて

いる状況です。

そこで、これまで「いくのっ子広場」や「お散歩ラリー」などの従来型のイベント開催や、オンラインによる子育て講演会の配信といった新しい形のイベント開催に取り組んでまいりました。

また、恒常的に顔の見える関係づくりを目指して、保健師の似顔絵を描いたチラシの配布や、複数回にわたる1歳6か月検診のフォロー教室などを開催してきました。区民アンケートでは、生野区は安心して子育てできる環境が整っていると感じるかの問いに対して、赤枠の肯定的な回答が半数を少し割り込んでいる状況にあり、先ほどのデータも含め、子育てしやすい環境づくりは引き続きの課題となっています。

来年度も引き続き「いくのっ子広場」をはじめとしたこれまでの取組に加え、昨年11月にもと御幸森小学校で開催した多言語での絵本読み聞かせイベントなど、子育て世帯が交流を図れるような取組を進めてまいります。

また、児童虐待の防止策として、地域と関係機関のネットワークを生かした、生野区こども地域包括ケアシステムの運用を進めていくとともに、地域での見守りの目と子育ての協力者を増やす目的で始めた、生野区まちぐるみ子育て宣言について、これまで3地域のみでしたが、昨年は更なる普及を図るため、民生委員、児童委員の皆さんにも協力の依頼を行ってまいりました。引き続き地域や関係機関の方々との連携を強め、子育て環境の充実のための取組を進めてまいります。

続いて、教育環境の整備についてですが、学力や学習状況に関する国の調査において、勉強時間や将来に夢を持っているか、難しいことに挑戦するかなどのいずれの問いに対しても、大阪市は全国平均を下回る結果となっております。そこで、学校で模擬検定などの受験ができる学び支援授業や、民間事業者等を活用した課外事業であるいくの塾、キャリア教育や性教育を学ぶための生きる力学びサポーターを、学校の要請に応じて派遣する事業などに取り組んでまいりました。区民アンケートでは特色ある学校づくりが進められているかという問いに対して、44パーセントの方から肯定的な回答が得られています。

引き続き、学校や企業、地域と連携しながら、これらの学力状況の把握や自主学習習慣の確立、基礎学力向上に向けた取組を進めてまいります。また、企業のご協力をいただきながら、児童生徒が商品の企画立案や、プレゼン販売までを体験できる生野未来教育ネットワーク事業を令和3年度より進めており、今年度は実際に生徒が考えたサンダルやパンなどを販売してきました。来年度も田島南小中一貫校の生徒が考えたパンの販売を予定しています。今後とも協力いただける事業を増やし、協力連携しながらこれらの取組を進めてまいります。

最後に3本目の柱、地域経済活性化についてです。地域資源であるものづくり技術や空き家等を活用し、公民地域連携によるリノベーションにより、にぎわいのあるまちを目指して取り組んでまいります。

まず、ものづくり分野についてですが、景気の影響や後継者不足などにより、事業所数、従業員数は共に減少が続いております。こうした状況に歯止めをかけるために、これまで区内のものづくり企業を紹介したものづくり百景の作成、展示や、

イベントでのワークショップの開催、次世代育成を目的としたイベントを開催するなどして、生野区内のものづくり企業の認知度アップや、魅力を高める取組を行ってまいりました。こうした取組のかいもあってか、区民アンケートではものづくりのまちであることに魅力を感じるかとの問いに対して、65パーセント以上の方が魅力を感じていると回答されております。引き続き、ものづくり百景を活用した情報発信や、イベントでのワークショップの開催なので、生野区のものづくり企業の認知度アップや、魅力を高める取組を進めてまいります。

また、前回の区政会議でもご紹介しましたが、生野区のまち工場の非常に高い技術力と大学の研究者やベンチャー企業のアイデアをマッチングして、新製品を生み出すといった仕組づくりにより新たに取組んでいく予定です。

続いて、空き家関連の分野についてですが、生野区の空き家の割合は、市内24区で5番目に高く、また不動産市場に流通していない空き家の数は、24区で最も多くなっています。これまで地域が主体となった空き家対策会議の開催や、利活用の相談受付、そして学校跡地施設を地域の防災拠点や、地域コミュニティの拠点としながら、その利活用に向けた取組を進めてまいりました。区民アンケートでは、空き家を活用した取組が進んでいるかとの問いに対して、赤枠の肯定的な回答は24パーセントと、前年より若干増加しているものの認知度はこれからの課題となっています。

これからも引き続き、空き家活用の関係団体と連携したセミナーの開催や、区と事業連携協定を結んでいる事業者の仕組みを活用した空き家、空きスペースの利活用、そして、今年1月からは新たに事業連携により、いくのアカツカウナターという相談事業を行っており、令和5年度からは、新たに調査した空き家の情報をクラウド上にデジタルデータで管理し、活性化につなげる事業を予定しております。

次に、学校跡地の利活用に関してですが、こちらは昨年10月29日、30日にいくのパークのプレオープンイベントとして開催された、いくの多文化クロッシングフェスの様子です。大変なにぎわいを見せていました。現時点でご覧の4校で、学校跡地の活用事業者が決定しております。令和4年4月に貸付け開始となったもと御幸森小学校は、食を中心とした複合施設としての活用に向けて準備が進められています。この4月に引渡しとなる3校についてですが、もと生野小学校及びもと林寺小学校についてはインターナショナルスクールに、もと生野南小学校については、専門学校の仮校舎として活用された後に通信制高校が開校する予定です。

なお、インターナショナルスクール2校については、幼児教育から高等教育まで一環した国際バカロレアによる教育プログラムを採用される予定です。

続いて、生野区の魅力を内外に発信していくシティプロモーションですが、これまで様々な区の取組、魅力を広報紙をはじめ、ツイッターなどSNSにより情報発信してまいりました。区民アンケートでは多彩な魅力あるまちかとの問いに対して、肯定的な回答が61パーセントであり、前年度と比べて7.2パーセント増加しております。

また、訪れたい住みたいと感じられるような魅力あるまちかについても、前年度と比べて7.7パーセントの増で、52.4パーセントと半数以上の方から肯定的な回答

が得られました。引き続き生野の魅力を発掘浸透し、様々な広報ツールを活用して区内外へと魅力を発信してまいります。

そして、最後の取組となりますが、生野区には今や全国的に有名な観光地でもある大阪コリアタウンがあります。年間約200万人の方が訪れ、にぎわいと活気を見せてくれています。

さらに、2025年には大阪関西万博に全世界から2,820万人の方が訪れると予想されています。これらの人、富、新技術を生野のまちに取り込むための仕掛けづくりに取り組んでまいります。具体的にはE X P Oいくのヒートアッププロジェクトと銘打って、飲食、物販、空き家活用、ものづくり企業など、各分野の専門家の方々、あるいは地域で活躍する住民の方々をつなぐネットワークや、観光案内所的な情報発信のネットワーク、そしてまちの楽しい口コミの情報を発信していただく、仮称おせっかいマイスターという住民主体のネットワークを作って、万博や生野のまちの魅力を区の内外に発信してまいります。

また、このようなネットワークでそれぞれが連携して、いろいろな形で同時多発的に盛り上げるイベントを開催していただくための支援も進めたいと考えています。

さらには、オンデマンドバスや今里ライナーなど、地域公共交通課題への取組を進める他、区内を移動していただくためのシェアサイクルの充実として、生野区と天王寺区の2区合同でシェアサイクルの実証実験を4月から開始し、区内の周遊性の向上を図ってまいります。

以上のような取組を進めていき、この度の将来ビジョンに掲げている異和共生を基本理念として、誰もが居場所と持ち場があるまち、そして暮らしても遊んでも働いても面白い異和共生のまちづくりを進めてまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

説明は以上です。ご静聴ありがとうございました。

#### ○三木議長

ただいま、区役所からの説明がありました。これから議員の皆さんに意見交換をしていただきますが、限られた時間でより円滑に意見交換をしていただけるように、私のほうから学識委員を代表して、山納委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。

それでは、山納委員よろしくお願いいたします。

#### ○山納委員

山納でございます。今から1時間よろしくお願いいたします。

19名ご参加いただいているということで、8時半ぐらいまでをめぐらんとということですから、お一人二、三分ぐらいお話しいただく時間があるかと思います。

今日はたくさんいまご説明いただいていたのは、令和5年度生野区の取組でございました。これまでどういうことをやってきたかっていうことと、今年度何をやっていこうということをまとめてお話をいただいたかと思います。もう一つ、生野区将来ビジョン2023-2026という資料も事前に配られておりました。これから未来に向けて生野区で何をしたいかということ、その方向性を示す資料を配っていただいているわけでございます。ただですね、皆さん、この会議にもう何度も出席し



ていただいているので大体知っている、聞いた、聞いた、こういうことでしょうかということが分かっているぐらいの状態なのかなというふうに思っています。

一方で、時代が進んでいくと、我々も年を取っていくし、世の中は少子高齢化が進んでいくし、空き家が増えていくみたいなことで、幾らかの課題というのがより深刻になっていくのでしょうか。先ほどの図を見ていて、特に産業ですね、事業所数と従業員数がすごく減っていますね。ということもそうですし、空き家率が20パーセントというのも示していただいたかと思えます。

ですから、何でしょう、我々の目の前の暮らしをよくしていくための活動というものは、何に例えたらいいんでしょうかね、家の前の掃除とか、家の前の溝さらいみたいなもので、やってもやってもやらないといけない仕事が出てくるし、何だったら、やってもやっても物事が解決せず、より悪い方向に進んでいっているかもしれない。それは世の中の流れがそうなっているから、なかなかそれを変えていくぐらいの力が持っていないかもしれないということをお願いしながら多分進んでいくんだらうなと思っています。

多文化共生、子育て教育環境の整備、地域経済活性化という三つの方向を示していただきました。いろいろなことをおっしゃっていただいたなと思えます。ですから、これまでこれだけのことをやってきたってということ、皆さんもご存じかと思えます。でも、まだまだこれじゃ足りない、この方向についてはもっとこういうことをやっていきたい、やってほしいということをお願いいただいてもいいかもしれませんし、前にも同じようなことを言いましたが、今このように方向を定めています、そうではなく、これももっとやっていけることではないだろうかということをお願いいただいてもいいかもしれません。

いずれにしても、生野区役所さんのほうで示していただいた、今年が取組及び将来のビジョンをより生きたものにするために、又は自分事にするために、今からの1時間を使っていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

ということでお話をいただこうと思いますが、何となくどっちかから、こうって話の仕方になっていたのですが、今日もそうなりそうな予感がするんですが、前回こっちからだったので、洪さんに振らせていただいてよろしいでしょうか。お一人二、三分あります。

#### ○洪委員

こんばんは。洪です。前回ちょっとお休みをさせていただいたので、皆さんとの思いの共有がきちんとできるのかちょっと不安なんですけれども、やはり住んでいたかかないといけないということを考えたときに、医療とか健康、やっぱり私たちは教育なので教育と考えたときに、抜本的な個人的な考えではなくと言われましたが、やはり、いろんな取組を生野区はしています。すごく生活的にとか、いろんな環境のしんどい子どもたちに向けてのことだとか、そういうこともやっているんですが、追い付いてないだらうなと思っています。そこに行ける人たちはいいけれども、やっぱりそれ以前に子どもたちが学び合う場で、保護者のご家族の方達も現状を、自分たちが置かれている状況が、社会的に自分たちはどういう状況になっているかということをやっぱり知る側が必要やと思っています。私たちは賢くならない

といけないと思いますし、社会的にも生かされないといけないと思っているので、そうすると、学校の教育の根本的な自分に自信が持てないというのを、特に中学生はテストですし、あれだけテストがあれば、テストの点を取るために塾に行ける子はいいけれどもということで、生野区もいろんなことをやってはいるんだけれども、それは果たして根本的な解決になるのかなとずっと思っています。

それと、どんな状況においても、やり直しができるっていう社会のシステムがなければだめなのかなとちょっと改めて思っていました。何とというか、それはやっぱり住んでもらわないといけないんですけど、例えば、シェアサイクルであるとか、いろんなことしていますよね。オンデマンドバスとか。以前も言ったと思うんですけど、生野区にはいろんなものがあります。遺跡やとか史跡やとか、もちろん食のもの、路地が多い、それをシェアサイクルで周遊するものづくりのコースだとか、要するに観光客に日帰りで帰ってもらうんじゃないじゃなくて、2泊とかそういうコースを作って、空き家にそういう宿泊施設を持ってくる、もうちょっとコロナがましになるかなと思うので、私は外国人ですけど、外国の方に来ていただいて楽しんでいただく。

そういうことで、その中でやっぱり生野区っていいなって思って、すごく少ないだろうけれども、そういう人たちも住んでいくことにつながるができるんじゃないかなと。そのコースの中に老若男女、いろんな力を持ってる人たちがすごくいてるので、そういうことができるかなと。いろんなNGOも多いですし、社会的弱者って言われている人たち、何が弱者かちょっと分かりにくいんですけど、そういう人たちがいろいろやっているコースも、そうすると、いろんな地域でちょっと分からない情報が入ってこない人たちにとっても、そういうものが見えてきたらいいな。だから、いろんなコースを使って生野区を巡ってもらおう。そうしたら、女性に優しいなとか、こどもに優しいなとか、いろんな世代の人たちにとって、優しいところをアピールしていくということができればいいかなと思っています。

○山納委員

はい、ありがとうございます。では、北口さん、お願いします。

○北口（充）委員

まず、犯罪の防止ということで、防犯カメラの設置を増やしていただきたいなという点と、それと、先ほど令和5年4月から自転車のシェアサイクルですね、生野区と天王寺区とおっしゃって大変便利かと思うんですが、それに伴う事故が絶対増えると思います。ですから、警察との連携で安心・安全で乗れるような取扱いの仕方ですね、それをしていただきたいと思います。

もう一つ、犯罪の防止なんですけど、やはり、今ニュースで毎日のようにしております高齢者への振り込め詐欺なり、もしくはおうちまで襲ってくる、そういうふうなことの防止であり、役所、警察との連携で、そういうふうな事件を未然に防止するようなことを考えていただけたらなと思います。以上です。

○山納委員

はい、ありがとうございました。では、倉本委員お願いいたします。

○倉本委員

こんばんは。区政会議に参加させていただいて、ずっと悩むことなんですけども、どうやったら住んでいただける人が増えるんだろうっていう多分共通の課題点だと思うんですけど、幸い私が住んでいる地域は空き家が減ってきてまして、建売住宅が増えてきて、そこに入居されているご家族が増えてきているので、見た目からして実感というのは感じています。ただ、まだまだ空き家と空き地が多い地域だからこそ、なかなか人口が増えないんだなというのを感じていますので、もう少し土地活用の促進をしていただきたいなということが1点目。

あとは、若い世代の方々に入ってきていただいて、生野区内で家族を作っていたのが一番だと思っていますので、もう少し子どもを産む環境に対する助成があったらいいのかなと。他の区に比べて生野区に来たらメリットがあるよっていうのが明確にあれば、若いご夫婦が入居いただけるのかなとかいうのをちょっと感じたりしています。

そこから子育てをしていく中で、いろいろ小さなお子様に向けてのサポートはたくさんあるんですけども、先ほどもおっしゃっていただいたとおり、小・中学生へのサポートはまだまだ不足を感じていて、実感としてはやっぱり私学に行かれる小学生が非常に多いので、区内の中学校に魅力を感じてないのか、はたまたもう少し学力を伸ばしたいといって私学を受験されるのかという、年々こう、東京は知らないですけども、実感として、私学受験のお子さんが増えているのを感じています。ということは、あまり生野区の学校に魅力を感じてらっしゃらないのかなということを感じたりしています。

あとは働き手が半分減ってきていますので、若い方が外に出ないような、そういった新しい企業様だったりとか、チャレンジアップができるような、スタートアップができるような、そういったサポートの環境が整っていれば、若い起業家の方々も来ていただきやすくなるんじゃないのかなということで、起業するとかももうちょっと増えてきてくれたらうれしいなということで、少し三つ四つ申し上げましたけども、お子様を育てる環境と、働き手が外に出ていけないような施策が、もう少し明確にうたえているものがあれば、生野区にメリットを感じていただけるんじゃないのかなというふうに感じております。すみません、ちょっと答えがあるわけではないんですけども、ここ1年間の中で、すごくずっともやもやしていることを申しました。ありがとうございます。

#### ○山納委員

ありがとうございます。藪本委員、お願いいたします。

#### ○藪本委員

こんばんは。東中川の藪本です。よろしくお願ひします。

来る5月19日金曜日、いくのの日ということで、大阪松竹座において貸切りの観劇会が行われるようです。この観劇会の案内にもありますが、コロナのこの騒動も3年たち、そして地域のイベントは、あれも駄目、これも中止というようなことで、地域のつながりが大変希薄になっているように感じています。その中でマスクが各自の判断になり、また、これからコロナの扱いも2類から5類相当へと変わっていくということですので、このような催しをしていただけるのは大変ありがたいと思

っています。このような催しで地域の皆さんのつながりがより深くなればと思っています。

また、区役所の皆様には、地域のイベントなり防災訓練等などにも、今まで以上にご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。では、川本委員、お願ひいたします。

○川本委員

基本的に今日は黙ってようと思ったんですが、ちょっとだけ。私は一応町会長や連長をしております。区役所からのいろんなビラ、そういうものも表に貼ってあります。回覧板で回しています。全部絵に描いた餅で誰も興味を示しません。地域の人は、「関係ないじゃん、知らんって、そんなん。」、「いや、回覧板回ってたやろう。」、「見てへんねん、私たちの生活に直接関係ない。」っていう意識が住民に強いのではないか。いろんなことをやっていただくのはありがたい。しかし、それは絵に描いた餅で、住民に意識化していないというところが目に見えて分かります。

例えば、「こういうビラを貼っています。」、「そんなん行く気ないで、そんなん知らんで、関係ないやん。」っていうような答えがいっぱい返ってきます。それで、一度今年連合のほうで、「こんなビラ、こんな回覧が回っていますが、どの程度知っていますか。」というアンケートを採ろうかなと思うんです。多分、関心が薄いんじゃないかと。生活に密着してないという意識を持ってじゃないかというような気がします。それだけです。

○山納委員

ありがとうございます。さっき、シティプロモーションでこんな取組をやってるっていう話がありましたけども、もしかしたらインナープロモーションっていうんでしょうかね。この区に住んでる人の中に、その施策をプロモートするっていうことを考えるっていうのもいるんじゃないのかなと、いま伺っていて思いました。

はい、ありがとうございます。では、川中委員。

○川中委員

今の川本委員の発言を聞きながら、川本委員のアイデアを私も聞いてみたいと思いました。また教えていただけたらなと思います。

私からは3点申し上げます。一つ目ですけども、各種取組を今日ご紹介頂きましたけれども、これらをブラッシュアップしていったり、あるいは、ご紹介いただいたものを見落とししていたり、見過ごしていたりする点を見いだしていくには、私たちも行政職員の方々も当事者の声をどれだけ聞いていくことができるのかということが、鍵を握ってくるのではないかと考えております。そういう意味では、予算を拝見しても、今日ご説明いただいたプレゼンテーションにおきましても、広報・広聴でいうと、広報のほうには非常に力を入れていこうという意思が見られるのですけども、広聴の部分はどう評価していくのかということも、今後検討していく必要があると思っています。先ほどの、行政がいろいろやっても、地域住民は関心が湧かないという話ですけども、行政取組を知る接点というのは、広報するだけ

ではなくて、聞かれたときもあります。「それやったらこんなふうに考えるよ」って意見が出てきたりするところもあろうかと思しますので、広聴機能をどう強めるのかということも重要ではないかと思っています。これが1点目です。

2点目ですけれども、今日配付されました参考資料4で、パブリック・コメントの実施結果が示されていますけれども、広聴という観点で見ますと、この件数は非常に残念だなというふうに言わざるを得ないと思うんですね。先ほども住民はあまり関心がないのではないかという問題提起がありましたけど、確かにこの件数ではそうだなって思ってしまう人もいるでしょう。しかし、これは住民が悪いということをお私言いたいのではありません。やっぱり住民からしたらこういうのを書くのは大変労力も要ることですし、余裕がないとなかなかできないことでもあります。なかなか自分事というよりかは他人事のように思っていることに、そんな汗かこうとはならないわけですので、パブリック・コメントというのは、行政側がかなり積極的に集めるぞと動かないと、今は出てきにくいわけですね。他都市でもそういったパブリック・コメントを作るためのワークショップとか、いろいろ取組があるので、すけれども、今回資料を拝見する限りでは、その辺はちょっとまだ手薄なのかなとも思われました。是非、今後こうした住民の声をうまくすくい取っていくとか、耳を傾けていくところはより強化していただきたいと今回のパブリック・コメントを拝見しても思いました。

3点目ですけれども、そうしたことを考えていくときに、運営方針といたしまして、区役所の動きかたというところについて、もう少し詳しく示していただけるようになるというなと思っていました。前回の議論の中心でありました将来ビジョンでも、区役所の働きかたといったところでは業務改善とICTの活用ということをやっておられるわけですけど、それだけでは不十分でしょう。部局間連携・協働をどう進めるのか、こうした市民の参画をどういうふうに強めるのか、そうしたことを進める人材をどう育成していくのか、住民とどう近付いていくのかといった辺りは、なかなか見えにくい。いろいろとご検討されているのかもしれないですけど、私たちにはまだ見えにくいところがございしますので、よりしっかりと示していただけると、今日ご説明になったものが、絵に描いた餅じゃなくて物になっていくと我々も確信を持てるようになっていくのではないかというふうに思っております。

以上です

○山納委員

ありがとうございます。それでは、小出委員お願いいたします。

○小出委員

こんばんは。林寺の小出です。よろしく申し上げます。

6ページの災害発生時の的確な対応というところで、いま生野区では外国人の住民が増えていますけど、生野区防災訓練のときとか、生野区一斉パトロールのときとかに参加される方で外国人の方っていうのは見たことないんです。もし震災が起ってしまったときに、いろいろこの6ページの対応は書いてくれてるんですけど、実際起こったときには、まちの防災の地域の担当の人たちがすると思うので、防災訓練に参加されてない方は、急に学校とか避難所に来てパニックになっているので、

やはり多言語化された案内板を、何か私ことあるごとに言っていて、でも一応ここに来る前にも林寺の防災リーダーの方に、いま備蓄倉庫にあるものに多言語化されたものってありますかって聞いたら、ないということなので、起こってからパニックになるより、先に大変かもしれないですけど、各地域に早く多言語化されたものを配っていただきたいなと思います。お願いします。

○山納委員

ありがとうございます。橋野委員お願いいたします。

○橋野委員

中川の橋野です。よろしくお願いします。

空き家が多い。先ほどもおっしゃっていたように、私のところも古い家が多くて、潰されて新築になったらすぐ入られるんですね、人が。だから、20年以上も本当にそのままという形の家が結構あるので、そういうのが役所から運動して売るなり、そういうのをしていただけたらありがたいんですけども。たまに来て見て帰られるとかいうのでしたら分かるんですけども、本当にそのまま誰も入っていないし、そういうところに何か役所の方がちょっと介添えしていただけたらありがたいかなと思います。

それと、商店街では自転車を押して歩きましょうというのを啓発マナーでされてるみたいですけど、やっぱりあまり守られてないように思うんですね。シャッター通りとかになっていて、そういうところの空き家に自転車置き場みたいなものを作ってもらって、商店街は歩きましょうみたいな形にしていったら、その往復商店街を通るといことで、ちょっと活性化されるのではないかなって。それは私個人の意見ですけども、自転車どうして商店街の途中でしゃべられていたりしたら本当に通りにくいときがあるので、そういうのもちょっと考えていただけたらと思います。

よろしくお願いします。

○山納委員

ありがとうございます。では、船方委員お願いいたします。

○船方副議長

北鶴橋の船方です。よろしくお願いします。

私もこの区政会議に参加させていただいて結構長いといいますか、いつも思うことなんですけども、やはり空き家の対策というのは、本当に私の家の並びでも2軒あるんですね。他にも特に私の地域は空き家はかなり多い地域になっていきますので、何とか活用できる方法がないのかなって、いつもそれを見ながら思っていて、どこかの自治体のほうで、そういう空き家をリノベーションして、新婚所帯に賃貸で貸すとか、そういった形で誘致をしているというのをテレビで見たことがあるんですけども、確か堺のほうだったと思うんですけど、そういったことを一つの、新婚の方に優遇できるように、空き家の賃貸住宅みたいなものっていうのを造ったりですとか、あと外国の方も多いといことで、外国の方を活用するという形で、生野区に來れば世界旅行ができるよっていうような、その料理とかレストランとか、そういったものを誘致して、そのために空き家を使っただいて、なおかつ、そこにシェアサイクルっていうのは、かなりいい案だと思うんですけども。

生野区の歴史探訪の上に、その路上に各国のレストランがあつたりとかすると、観光の方も増えますし、なかなか面白い地域じゃないかというふうに思える魅力のあるまちづくりができるんじゃないかなと私はいつも思っています。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。エリアイノベーションというやつですね。地域をどんな地域にしていくかということ、空き家活用を重ねて考えるということも面白いかと、そんなふうに思いました。

それでは、三木さんお願いいたします。

○三木議長

鶴橋区の三木でございます。15ページをご覧くださいと思うんですけども、身近な見守り、支え合いということで、地域における要援護者の見回りネットワークの強化事業ということで、福祉専門職が地域の見守り、支援活動を視野に入れた支援を行うと書いています。私はその下で、要援護者名簿の作成、同意確認ということで社協の方と同行して1軒ずつ回って、要援護者名簿の作成するというお願いと同意書を頂きに回ったことはありますけれども、非常に手間暇かかる資料で、社協の方が作られて、その保管は区役所のほうでされていると。それで、この貴重な時間のかかった手間暇もかかった資料を閲覧するには、地域の連合町会長、又は地域の民生委員長が事前に協定書を区役所と締結をし、文書で申請をして上げるという非常に敷居の高い書類なんですけども、私も以前お借りしたことあるんですけども、直近でどの程度この貴重な資料を活用されているのか実態をお伺いしたいと。

○山納委員

お答えはできるでしょうか。

○清水地域福祉推進担当課長

地域福祉推進担当の清水でございます。いま三木議長からいただきましたご質問ですけれども、これまでに要援護者名簿の閲覧、又は貸出しのご依頼を受けましたものとしましては、19地域の中で13地域からご依頼を受けて、閲覧、又は貸出しをさせていただいているところです。直近、例えば令和元年度には4地域、令和2年度も4地域、令和3年度は1地域、令和4年度も現在のところ1地域でございます。以上でございます。よろしくようお願いいたします。

○筋原区長

ちょっと補足させていただきます。要援護者名簿の活用ということなんですけども、これは何のために今あるかという、いざというときに、特に災害のときなんかには要援護者の方を近所で助けに入る必要があるということが大きいことかと思っております。それには災害のときだけに、災害のときは名簿は開示できるとなっているんですけど、そのときだけ開示しても意味ないわけですよ。やっぱり日頃から顔の見える関係をどう作っていくかっていうのが非常に大きな課題だと思っております。いま個別避難計画というのを要援護者の名簿、また地域で作られている名簿をもとに、援護の必要な方、お一人お一人に対して、誰が助けて避難するかという個別避難計画というものを作っていこうと、いま北鶴橋の地域をモデルとして、今年からその取組を進めているところです。

それをモデルとして各地域の取組を広げてみたいと思っています。以上でございます。

○山納委員

では、永松委員お願いいたします。

○永松委員

生野地区の永松です。よろしくをお願いいたします。

すみません、私からは二つお話しさせてもらいたいことがあるので、その前に確認したいんですけど、この参考資料6のアンケートの対象は、これは生野区在住の方にしたアンケートで間違いないでしょうか。大丈夫ですか、ありがとうございます。

このアンケートを見ていて、いろんなところの課題というのは、割と結構ネガティブな反応のほうが多いのかなと。地域におけるつながりとか、子育てがしやすいかとか、いろんなところを見ていると、やっぱりもうちょっと課題を感じている方が多いのかなと思いつつ見ていたんですが、ただ、生野のまちに愛着を感じますかっていうアンケートにおいては、ものすごいそうであると、どちらかと言えばそうである、一番最後の1枚ですね、めっちゃ高いなと思って、皆さん生野愛がすごいと、私もやっぱり、もともと生野で生まれ育ったわけではないですが、結婚してこのまちに住んで、とにかく生野は面白いと、すごくいいまちだなというのは思うんです。

それで、やっぱりその次のアンケートでも、訪れたい、住みたいと感じられるような魅力あるまちかって言われると、これは割とプラスのほうに振ってるなと、ぎりぎりですけど、思うので、でもこれ前の山口区長のときにも話題になっていたと思うんですが、生野区というと、とにかくイメージが悪い、検索で出しても生野区治安が悪いとか、そういうのが出てくるので、やっぱりその生野、特にこの数年でまちがまた一気に勢いづいて、魅力がどんどんあふれているところがあると思うので、それを外に是非知っていただきたい。生野めっちゃおもしろいでっていう、また特色ある学校も増えてる中で、こども育てるのにもめっちゃええでっていうのを、やっぱり知ってもらいたいなというのはすごく思います。

私もこどもが小学生なんですけど、4年生、その辺で友達とわあっと遊びに行くんです、放課後とか。でもちょっと田舎のほうに行くと、危なくてそんなことさせられへんと、ちょっと習い事に行くにも送迎せなあかんという話を聞く中で、割とこの辺の子は小学校の低学年からうろうろとか、遊びに行くので、そういう意味でも安全なまちっていうのを是非知っていただきたいなと。ただ先ほど見てたSNSの発信とかは、正直件数も出てましたけど、ちょっと少ないかなと。でも区役所という立場では、とても難しいとこなんやろうなとも思うので、そこが何かいい形で発信できたらいいなと思ったのが一つです。

もう一つは、防災の話をさせていただきたいんですけど、何年か前にうちの地域では避難所立ち上げ訓練というのをしたんです。避難所はこう立ち上がりますよというのを皆でやったんですけど、これに私は広報として写真撮影として参加させてもらったんですけど、実際初めて見てめっちゃめっちゃよかったです。「避難所ってこんな



感じでできるんや、まあまあ大変やな。」というのをリアルに知った。

でも、ふだん避難所は、地域の学校が避難所になるということを知っている方がほとんどだと思いますけども、避難所の運営を誰がするのかということになると、恐らく行政のお役所の人に来てくれて、自分は避難したらお客様のよう支援してもらえんと思ってる方がほとんどだと思うんです。私も実際そう思ってたので、以前までは。それを思うと、「いや、そんなことないねんで、自分たちでやるねんで、地域の人たちで運営していくんやで、まあ大変やで。」ということを是非知ってもらわなあかんし、またコロナですって防災の取組もできなかったとこ多いと思うので、避難所開設訓練を是非どの地域でも積極的にやっていって、それを知っていてもらうというのは、一つ防災の取組として是非目指していただけたらなと思います。

この間、以前生野地域でやったときは、大阪市の危機管理室の方が立ち上げ訓練をサポートしてくださったんですが、いま実はそれが無いということを知りました。大阪市のほうではそれはやってないと、じゃあ、どうやって避難所立ち上げ訓練やるんですかって言ったら、ちょっと分からないみたいな話を聞いて、私がちゃんと話が聞けてなかったら、ごめんなさいね。

なので、それやったらそれこそ区の取組として、区のほうで各地域サポートしていただくのがいいのではないかなと思ったので、是非ご検討いただけたらなと思います。以上です。

#### ○山納委員

ありがとうございます。区のほうで避難所を立ち上げ訓練をサポートしてほしいというお話でございました。

では、宮崎委員お願いいたします。

#### ○宮崎委員

ちょっと予算書を一組見せてもらってまして、昨日じゃなくて13日に生野の空き家が古くなってバシヤンと倒れたんです。ところが、このバシヤンと倒れたのをどうするいう予算はないんです。それで権限もないんですよ。「そこ通ったら危ないよ。」ということで、役所がポールでちょっと囲いをしてくださったんやけど、それでも区役所も権限がないんです。それをのける権限も予算もないんです。

だから、空き家についていろんな問題が出ているけど、これは国が予算を作るとか法律を作らない限り、これは行くところまで行かな仕方がない。いくら大きな声で言ってみても、何の意味もない。この間、現物をみんなで見ってきましたけど、バサッと倒れて道路を塞いでますけどね、消防署も来て何かするけどやね、別にどうしようもないんです。国が一番だらしがないんやろうね。そういうことに対して、こういう処置ができるというのは、まだ作ってくれてないからね。だから、それを作るまで待つしかない。それで、この予算書、日本がそんなことになったらこの予算使いなさいというのは書いてませんね。

それで、予算というのを一生懸命見てますと、生野区というのは、よくこのチラシでも書いてもらっているのですが、銭湯が32軒建っていますが、これ毎年どんどん減ってきてるんですよ。減っていくんやろうに何か体制援助をしてるかといえ

何もしていない。今32軒あって、市内で一番多いとて言うてるだけで、これどんどん減ってるんですよ。新しい家は風呂ありますわね。風呂へ行ってる老人はどんどん亡くなっていきますわね。それで風呂代は結構460円かして、家族で行けるような値段じゃないですわね。そやから、予算措置をしない限り、予算措置しても減っていくやろうけど、どうしようもないと思うね。

それで、ここにまた多文化共生というのを書いてます。多文化共生ってよくこの頃使われてますねんけど、多文化共生に対する予算って、どこにあるのかなと思ってね。これ今日もちょっと区役所で聞いたんやけど、児童いきいき放課後授業というのがありますね。こども青年局で大阪市で41億何ぼですか、そのうち2億2,900万円を生野区はもらってるらしいですわ。

ところが生野区は外国人が入ってるんです。この間いきいき放課後授業をしようとしたら、外国人、ベトナム人もいて、いろんな人いてるでしょう。なのに手当とか同じで、そなんん収まれへんねん。そこに教育何とかいうて書いてるけど、教育環境がよくなるはずないですよ。多文化共生いうか、外国人が増えているにも関わらず、それに対する予算を大阪市が付けてくれへんからやね。

それから、この予算ばかりで言ったら、ここにだんじりってありますわね。これ生野区の文化なんですわね。この間、生野まつりやったけど、だんじりがカットされたでしょう。だんじりをカットしたら生野のまつりじゃないんですよ。

それと、交通安全っていうと、自転車事故が多いですね。それで、自転車マナーの向上を何とかしないと、ところがこの間も僕もちょっと首突っ込んでるから知ってるんやけど、桃谷駅の自転車の予算でも、毎年減らしていったんねん、これ。今年、前が250日かな、立ち当番がね、今度200日に減らしてる。それで交通安全、自転車マナーの向上って書いてあるんですよ。予算は減らして、どないしてマナー向上、自転車当番だけがマナーじゃないからな。他に予算立ててもらえるのであれば、それでもいいんですけどね、自転車マナーの向上というか、交通ルールの向上っていうのを何ぼかこの予算書に、こういう形で入れて頑張りますというのがあったらええんやけど、大阪市がいまやっていることといえば、IRか何かやってお金ばんばん放り込んでいくやつ、他の予算全部減り倒してるんやね。ここの役所に文句言っても、生野区の区政会議でこういう文句が出たから、こういうことはしましたというような話は一切聞いたことがない。すみません、以上です。

#### ○山納委員

施策と予算は連動させるべき、当たり前の話ですけどね。これをやりますというのは、いったいどういう手当、どういうことをやっていくらかかるのかっていうことは、連動して示してほしいというご意見を頂きました。古本委員お願いいたします。

#### ○松村安心まちづくり担当課長

すみません。先ほど、宮崎委員のほうからありましたが、空き家の関係でちょっと補足説明させていただきます。

今週の月曜日に空き家というか長屋なんですけど、それが崩壊したとこでございませう。長屋で人が住んでいるというか、物置になっているということで、そこは計

画調整局の監察課というところが対応しているところでございます。本日、倒壊した部分に計画調整局がフェンスガードを張って人が立ち入らないようにはさせていたでいてるところでございます。

宮崎委員のおっしゃられたとおり、基本所有者がするという事になっていまして、勝手に行政が何かをするということは、一定の手続を踏んだ上でやる事になっていまして、少し時間がかかっているような状況でございます。

いまのところ、その案件につきましては、計画調整局のほうで行政代執行等も含めまして、早期に対応するような形で、いま手続を進めているというふうに聞いているところでございます。

○山納委員

よく言われる特定空き家っていうのは、どこが認定して、そうすると、どうなるものかということだけ教えていただいてもいいですか。

○松村安心まちづくり担当課長

区役所のほうで所有者の調査をできる権限がありますので、所有者を調査して、所有者が判明しましたら指導をするということで、文書で連絡したりして、指導を繰り返すという形になります。その指導に従わない場合は、段階を踏んで勧告、命令、最終は代執行という形になるので、なかなか財産を処分することには制限がかかりますので、一定のそういう段階を踏んだ上で進めていく形になります。

○山納委員

ありがとうございます。

○松村安心まちづくり担当課長

すみません、特定空き家は勧告までは区役所がするのですが、命令と代執行になると、先ほど申しました計画調整局が執行する形です。

○山納委員

大阪市の部局ですね。分かりました。古本委員ありますか。

○古本委員

北巽の古本です。よろしくお願ひします。座ってお話しさせてもらいます。

小さな出来事といいますか、そういったこともあるんですが、北巽公園とロート製菓のあの辺が私の住んでる地域になっておりまして、新しく公園ができるのはいいんですけど、駐車禁止をもうちょっと強化できないのかなと。公園から公園をこどもが行き来するのに、警察もその辺までなかなか手が回らないということもあるのかなと思うんですけど、こどもが何か公園と公園を行き来したりするときに、道路を通るときに危ないなと思って、警察のほうとも話しをするんですけど、結局は事故が起こって人が死んでしまわないと動けへんのかなと、大きな事故で本当に誰かが犠牲になって人が死なないといけないのかなと、そういうことを僕は常日頃から思っているんです。それで、そういった環境といいますか、そういったことを何とかできるような方法ないのかなとか思ったりしてはますけどね。

それともう一点、同じような環境ということになるかと思うんですけど、ごみの分別いうか、近所の人もお出しておられるんですけど、結局はごみの日は出されるんですけど、あとポリの日とか缶の日とか、そういった日にちには何も出してない。

そやから、もう全部一緒くたになってある。

先ほど、2割ぐらい外国人がとか言われるように、町会に入っているのが、結局言うたら一部しか入っていないもんやから、回覧を回しても、掲示板にも貼ったりするんやけど、結局はそれを見ているのが一部しか見てないのかなと思ったりするんですよ。小さなことやけど、そういった環境に携わったことも皆さんに知ってもらおうというような、何曜日は新聞紙を出す日やでとか。新聞出す日やら缶・瓶出す日やら、ごみ出す日やら、ポリばっかり出す日やら、みな毎日のように違うのに、ごみの日だけは出すけど、そのごみの中見たら、缶も瓶も家庭で要らんもん全部一緒、要らんものはごみやというように考えてるのかなと思ったりするんですけど。

結局何が悪いんやろうと考えるんですけど、どう言っているのかな、回覧とかで回してあるやんとか、掲示板に貼ってるやんとか言うけど、結局は町会に入っている人には回ってるけど、町会に入っていない人が大体、七、八割いうか、ほとんど入ってへん。どないかいうたら、わずか町会費なんて月に300円かぐらいやけど、じゃあ、やめさせてもらうわとか、そんな状況なんですよ。そういうのを何か改善できないかなと感じてるところです。以上です。

#### ○山納委員

ありがとうございます。ごみの分別と多文化共生を掛け合わせて、多言語でごみの分別を呼びかけるということをやったらいいんじゃないですかね。

では、森本委員お願いします。

#### ○森本委員

昼間はいっぱい人がいる生野区です。コリアタウンがあって、さっき200万人って言っていました。あと、高校は皆さんご存じのとおりです。ちょっとざっと見てみたら、プール学院さん、金光藤蔭さん、大阪偕星学園さん、桃谷高校、それから生野工業さんがあって、生野特別支援学校がある、わかば高校がある、そこに日本学校の日生学園さんがある、その後インターナショナルスクールが二つ来る、専門学校が来るでしょう。だとしたら、昼間のこの人数多いよなっていうのをどう活性化につなげるのって、相手は高校生やっていう部分だとかということはあるんですけど、私も出勤しながら出勤途上、自転車で10分ぐらいなんですけど、必ず1分から2分の間にお一人二人、日本の方ではない外国ルーツの方かなと思う、アジアではない方に出会って、知らない人だなんて毎日思いながら、この方達と挨拶できる関係になればいいなって思っています。

そうすると、出会いになるし、お互いが知っているという関係になれる。挨拶が元気なまちというのが一つできたらいいなっていうのと、あと、小学校、中学校では、既に小学生たちともものづくりをリンクさせているんだけど、この高校生たちともものづくりのコラボは何かできへんのですかね。せっかく昼間に来ている高校生たち、それでインターナショナルの子たち、専門学校の子たちと何かうまくリンクできないのかなというのが一つ。

もう一つ最後は、どなたかもおっしゃっていましたが、食べると多文化と多様な時間をかけ合わせる。一つ食べるは絶対食べるんですね。朝・昼・晩食べるというのがあって、コリアタウンに一つおかゆを出す店があって、朝から長蛇の列にな

っているのを見ると、喫茶店だけではない需要があるんだなというふうに思う。いろんな、今ネパールの方々がすごく増えているので、ネパールの店もあるんだけど、多様な時間、コリアタウンも昼間はにぎやかなんです。夜になると静かになっちゃうんだけど、その辺りの多様な時間みたいなものを、もう少し活性化していくっていうか、夜をまちの中で活性化していくみたいなことの中で、生野区のまちが活性化することによって、みんなここへ住んでいこうかなみたいな流れかたにならないかな。もしくはここで働こうかなとか、ここで店を開こうかなみたいな、そんなふうに広がっていったらいいかなというふうに思いました。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。大藤委員お願いいたします。

○大藤委員

巽南の大藤です。よろしく申し上げます。

今おっしゃられていたようなこと、同じようなことを考えたんですけども、各地域から必ず小学校、中学校、高校と行って、大学に行く子がいてはるんで、その行ってはる子が例えば外大の子であるならば、大学で空いた時間にちょっとお手伝いしていただけるような、例えば、英語であろうと、スペイン語であろうと、フランス語であろうと、そういうお手伝いできますよっていうことができれば、若い子が活躍する場が増えるんじゃないかと思うんです。

そういう子たちに、たとえその子たちが生野区に住んでいる子じゃなくても、よその区であっても、生野区でこんな活躍できるよっていう場所を作ってあげられへんかなと。生野区に来ることが楽しくなったりとか、何なら生野区に住んでみようかというふうに話が広がっていったらいいのになっていうふうに僕は考えていました。その子たちに小学校、中学校に顔を出してもらいたいと思うし、チャンスはいろいろあると思うので、またこれをご検討いただけたらどうかなと思っています。

○山納委員

若い人にまちづくりの関わってもらうということですね。

じゃあ、塚本委員、お願いいたします。

○塚本委員

こども未来部会の塚本です。

三つお伝えしたいんですけども、まず一つは、生野区の中で大きな事故が立て続けに起こりましたですけども、そのときにやはり歩道に突っ込んでいたりしてまして、その歩道がちょうど通学路で、時間帯も通学の時間、帰る時間帯であったり、学校の真っ最中でその歩道に御勝山のほうですかね、それも1週間前に大渋滞が起こったりして、遊歩道に突っ込んでましたけども、こういうことが起こったときに、お母さんたちが交通整理したりして、こどもたちの通学路を確保したら帰るって、道を確保したりして、小学校とかに伝えてほしいんですけども、来てくれなかったとかですね、当時は。だから、この前から学校の統合のときから通学路のいろんな心配をお伝えしておりましたけれども、やはり、こういうときに先生方とか地域とかが、自主的にぱっと行ける人が行って対策を取ることが、マニ

ュアルじゃないんですけど、そういう気持ちで動けるような地域になっていくために、どうすればいいんだろうなというふうに考えたりもしていました。これは感想です。

もう一つは、塾に行けば学力が上がるとか、そういう妄想が今ちょっと全国的にもそうなるんですけど、大阪市の場合は塾代助成という仕組みがありまして、統計的にも全国から見れば、大阪市で塾に行ってる小・中学生はダントツなんです。すごく多いんです。そういう恵まれた状況にありまして、今度小学校5年、6年と、4月から塾代助成が使えるようになっていますが、その塾代助成も学習塾だけじゃなくて、いろんなスポーツだとか習字だとか、そういったものも十分活用できますので、親御さんとしては算数の塾に行かせておけば安心なんですけど、私も塾を経営していますが、こどもをただ行かせてるだけで終わってる状況になっていて、それは全然違いまして、こどもがかわいそうなわけで、それだったら体を動かす塾代助成が使える、そういうところに行かせてあげるとか、いろんな妄想、塾に行けば何とかなるっていう、そういうことは一切考えないで、その塾代助成を十分に使える、今どういう告知の仕方されてるか全然分からないんですけど、この4月からの塾代助成を有効に使える、対象の方々みんなが使えるようになってきているのかどうかですね、ちょっと気になってるところです。

もう一つは、通学路のことに関することもあるんですけど、放置自転車なんですけど、最近、放置自転車を運んでいくトラックですね、大阪市のトラックをよく見かけて撤去していくんですけど、それを大分、繰り返し、今年に入っても二回見ましたし、去年も10月ぐらいに一回見たんですけど、それでも同じ場所でまた撤去していますけど、これ何でかなと考えましたら、何か一時預かり、大阪市預かりが引取りが二千数百円ですかね、2,500円ですか、これだったら運ばれていっても自転車代また取りに返しに行っても2,500円だったら、ペイできるような感じがするんで、素人ながら没収っていうような形で、その没収したやつは売ると、そしたら、その市の経費も出てくるしというような素人の考えですが、その辺、法律上何かできないものかどうかっていうのをちょっと解決策として思った。この三つです。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。池原委員お願いいたします。

○池原委員

舍利寺の池原です。よろしく申し上げます。

私は地域の認知症の一人暮らしの問題をちょっと挙げてみたいと思います。要介護でヘルパーさんも来ていらっしゃいますが、ある宗教の信者さんで1日中ろうそくに火をともしられているんです。ご近所さんの通報で、先日消防署の方が指導に行かれたみたいなんですけど、分かっていたらいいんですけど、火事になってからでは遅い、地域の見守りだけではちょっと難しいところがあるので、何かよきアドバイスがあればと思います。よろしく申し上げます。

○山納委員

加藤委員、お願いいたします。

○加藤委員

こんばんは。こども未来部会の加藤です。

ずっと学校再編成で僕が西生野の地域です。再編成になるのには、子どもの通学路の安全を優先してほしいと前々から言って、再編する会議でもそういうことを約束されていたと思うんですけど、結局そういう通学路の安全というのは、ほとんどできていない。この間の事故があったのでも、学校の周り・・・道路やったらどうなるのかなと思って、もう逃げるところありませんからね。そういうのと、子どもの安全、西生野はみんなに頼んで結構出てもらってるんですけど、他の校区からの応援がいまのところないんですね。

それと、自転車のことでも商店街の自転車の通行、ものすごい危ないですから、林寺から西生野に来るときに、東西に両方から自転車が商店街の中を通っていますからね。あれも警察のほうに行ってもなかなかやってくれないんですね。

そういうのを役所のほうからちょっとは、あれは夕方3時頃ですかね、見守り隊はいてはるけども、地域に任せっきりでは意味ないですね。そのうち、みんなしんどくなってやめたいって言いかねませんか。もっと援助してほしいなと思います。

○山納委員

ありがとうございます。一周をいたしました。現場をそれぞれ見ておられるお立場から解像度の高い、こんなことが起きているっていうお話から、この改善につながるような提案まで頂いたかと思えます。

伺っていても何かあってからでは遅いっていうようなことが、実際にいろいろ空き家が崩れてみたり、車の事故が起きたりしているっていうことも考えると、じゃあ、どんな手当を我々は区として、区民としてやっていくのかっていうことを、改めて考える機会にこの会議がなればと思っております。

では、そろそろ三木議長にマイクを返したいと思います。

○三木議長

山納委員、ありがとうございます。

それでは、本日のご意見を踏まえて、関係者としてご出席いただいております歴代の議長等を務められました皆様から何かご意見等ございませんでしょうか。

○多田様

地域振興会の多田でございます。巽東から出ております。

いま、防災のことでちょっと質問がありましたけど、防災と一斉パトロールと生野区、そして今年は11月13日だったかな、一斉防災訓練を生野区全域で一斉にやろうという試みが区役所のほうで企画されて、地域もそれにのっかって、それと、避難所の開催地訓練ということですね。いま現在、生野区19校区に250人の防災リーダーが配置されてます。250人の防災リーダーがそれぞれの地域の防災訓練について、日夜頑張って計画していただいている。各連合で防災訓練を実施していただいた。我々は巽東のほうで実施しますと、1年目は小学生を対象にした防災訓練、そして2年目には地域の高齢者、住民を対象にした防災訓練を実施しております。

そして、あくまで一時避難所、それから一時避難して、それでそこから学校へ避

難していくと、その間、無線機の通話、地震が発生したときは携帯電話が使えないですから、無線機を使っての交信ということで、その無線機の交信が各連合で区役所と連合で通話はいま完全にできております。これは大阪市の中でもできているのは、生野区だけじゃないでしょうか。それぐらい生野区は防災訓練については特化して進んでるということですので、その分は防災に関しては誇ってもいいかなと思っています。無線機が各連合十分に使いこなせております。

それはなぜかと、一斉パトロールのときに各一時避難所から地域への区役所との連合で、何名の参加があったかということの、いわゆる参加人数の報告を無線機でやるんです。無線で区役所と相談しますので、それが完全にできておりますので、だから無線機の使用というのが、現在確実にできているのが生野区であるということですので、その点は防災、ただ防災については完璧にはまだできておりません、おっしゃるように、完璧にしようと思えば大変な費用と時間が掛かると思うんです。

ただ、そういう中で、少しでも住民の災害を減災するための方法として、いま地域で防災訓練を進めております。この訓練というのは、一遍だけやったらいいというのではないんですね。訓練というのは体で覚えるというのが訓練なんですね。災害が起きたときはパニックになります。何をしてもいいか分からない。例えば、簡単な例ですが、火事になったとき、消火器の使い方が分からない、どうしたら消せるんやということで消火器を火の中に投げた人があります。これは笑い話じゃないんです。本当なんです。消火器の使い方が分からないから、だから火を消すために消火器を火元に投げたと、これは笑い話じゃなくて本当にあった話です。ですから、地域では消火器の使い方も練習します。そして、災害を少なくしようという行動をいま現在しておるのが、地域の防災訓練の在り方ですので、そこのところは区役所と地域が連合して動いておりますので、それに是非参加していただきたいと思います。

それと、もう一つは、オンデマンドの話が前回出ておりました。私はこの1月30日に大阪市のほうでオンデマンドの継続、2年間の実証社会実験がありました。3年目をやらせてくださいということで、タクシー業界との意見交換をいたしまして、3年目も社会実験できることに、というのはなぜかといいますと、いま現在生野区は4台のオンデマンドが走ってます。そういう中でいま現在頭打ち状態です。というのは、予約が取れないぐらい需要が非常にいっぱいになって、参加者の利用者の集計の統計を取ると、全部横並びで増えないんですね。なぜかといったら4台が満額で動いてしまってるからです。いまメトロさんと話して増車をお願いしております。次年度は取りあえずは1台増やしますということですが、何台まで増やせるんですかって言うたら、10台まで増やせるという確約を頂いております。

そういう中で、このオンデマンドをいま社会実験であるんですけど、これを恒常的に動けるような形で私たちは進めていきたいと思っておりますので、いずれ赤バスとか廃止じゃなくて、現在のバス路線とオンデマンドの共用、二つの路線を使っただけの地域のインフラ交通を守っていききたいと、そういうふうに私どもは考えておりますので、皆さん、オンデマンドはまた来年も続きますよということで報告させていただきます。よろしく申し上げます。

○三木議長



ありがとうございました。新井さんは何かございますか。

○新井様

新井です。皆様のご意見をお聞きしていると、私もふつふつと思いが湧いてくるのですが、ある地域の住宅街の一角に空き地が一つできると、大型ごみが捨てられ、それがあつという間にごみの山になるんですね。こんなところに火でもつけられたらと心配する場面を多く見ます。

あと、空き缶を集められる方が多くなったことによって、積載の多さからバランスが悪くて、登校する児童に当たらないかどうかというのを見守りをしながら、いつも心配しております。

あと、各地でも取り組まれていると思うのですが、カラスの被害ですね、ごみをすごく荒らしますので、道路にもごみがあふれるというちょっと大変なところをよく見掛けますので、そこもちょっと対策を徹底していかないといけないのかなと思います。

子育てにおいては、学校は学びサポートと、子どもたちを社会へつなげるサポートを多く提案していただいて、活用させていただいております。その面では本当にありがたく感謝しております。

明るいニュースとしては、生野区の子育て芸人の田津原理音さんがR1グランプリで21代王者になりましたので、生野区を全国的に宣伝してくれると期待しつつ、その注目が当たったときに自慢できる生野区になるように声をかけ合う、温かい生野区を目指して、これからも意識を高めていきたいと思っております。ありがとうございました。

○三木議長

ありがとうございました。じゃあ、伊藤様お願いします。

○伊藤様

東中川の伊藤でございます。皆さんの本当に熱い思いがひしひしと伝わってくる今日の会議だったかなと思っております。

その中で私が気になりましたのが、高齢者の要支援者名簿ですね。あれは本当になかなか使いにくい名簿です。ですけれども、あれは半年に一遍ぐらいに更新されます。ですから、それを知ることによって、うちの地域にこういう人がいらっしゃるんだっていうことを理解していただいて、その名簿を頼り切るのではなく、地域で何らかの形で高齢者の方の見守り、その名簿の中には高齢者だけではありません。いろんな方々のデータがありますので、地域で足で稼ぐ名簿を作成していける方法を考えていきたいなと私の地域でも思っておりますので、これからは皆さん、そういう形で考えていただけたらなと思っております。

今日は本当にありがとうございました。

○三木議長

ありがとうございました。

それでは本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いいたします。

○筋原区長

皆さん、本当に貴重なご苦勞、ご意見、熱い思いをたくさん頂きまして、心より

感謝を申し上げます。ありがとうございます。本当に全てのご意見にお答えしたいんですけれども、ちょっと何点か思ったことを申し上げさせていただきたいと思います。

やはり、若い人がこのまちに住んでもらうということでは、若い方のチャレンジを応援できるまちであることが大事だと思います。生野区は若い方のチャレンジを応援する、そういう懐の深さと熱量のあるまちだと思っておりますが、シリコンバレーを例にとり言いますと、シリコンバレーはいま世界の名だたる大企業の本社が集まっていますけど、じゃあ、もともとシリコンバレーが大企業を誘致したのかというと、そうじゃなくて、まだ名もない青年であったビルゲイツであるとか、そういう方々が若いときにチャレンジする、そういう環境を整えられたまちだからこそ発展したと思っております、やはり、そういう社会受容性の高いまちというのが、これから発展してくと思っております。

生野区はものづくりが盛んで、生野区のまち工場は手仕事系の仕事が多くて、非常に高い技術力があります。

一方で、下請け孫請けの時代も長くて、新しいアイデアがなかなか出にくいという課題をお持ちで、一方でベンチャー企業や大学研究者はアイデアはありますけれども、形にできないという課題がありますので、まち工場の技術力とベンチャー企業や大学の研究者のアイデアを一緒にコラボして、新製品を作るという、そういう拠点を生野区で作っていきたくと思っております、そういうコーディネートもできて、そして、それにはまち工場のネットワークが必要ですので、それを作っていくというという委託事業を実施しようと、この4月から始まる新年度では、そういう取組を是非進めたいと思っております。

その中で、やはり高校生や学生の皆さんにもこの生野区のものづくりの面白さ、すばらしさ、格好良さを伝えて、そして是非ものづくりの仕事に興味を持っていただいて、そこに就職して働きたいと思ってもらえるような、そういう環境を作っていきたいと思っております。

それから、空き家についてなんですけども、特定空き家の対策というのは、大阪市全体でそういう検討会議も、私代表させていただいてるんですけど、進めております。ただ、やはり倒壊するような特定空き家になる前に、その前の段階で空き家を活用して、リノベーションして魅力的なお店にしたり、いろんな活動の場にするという、空き家のリノベーションは必要だと思っております。

そのときに一つ悩ましいのが、そういう使える空き家というのが、いま不動産市場になかなか数が上がってないということが一つあります。ですので、今年度、空き家活用株式会社というところと連携をしまして、それでそこがお持ちの400軒ほどあった生野区内の空き家情報を、空き家と思われるおうちですね、そこに区役所のほうから活用を働きかけるお知らせを出しまして、結果、数件反応もありまして、それでアキカツカウンターっていう、その空き家活用株式会社さんが、空き家のオーナーからご相談を受けて、受けたらそのご相談の内容に応じて専門家とつないで活用を考えていくと、そういう相談カウンターも今できておまして、そういう形で空き家活用の取組を公民連携で行っています。

また、4月からこれを本格的に展開しまして、これもまた事業者を公募しまして、データ化も含めて、効率的に空き家の掘り起こしとその運用活用ですね、また生野区にはたくさんの空き家活用の実績のある専門家もおられますので、そういう方々をつないで、実際に空き家をリノベーションしていきたいと思っています。

そして、やはり生野区に60か国の方が住んでおられて、いろいろな国のお店もありますので、是非万博に向けて、この空き家を活用して世界各国の料理のお店であるとか、魅力的な店舗もどんどん増やして行って、万博はパビリオンありますけど、それはバーチャルの世界ですので、生野区に来れば世界中のリアルな日常が、魅力的な日常があるという形に見える化して、そして万博を契機に、万博に世界中から集まる方を、生野区にもたくさん来ていただいて、万博以後のにぎわいに繋げていきたいと思っています。

それから、あと防災のお話もいただきました。私はもともと大阪市の港湾局で港の管理をしまして、そこの危機管理もやっていたのですが、ベイエリアでは災害時は津波が脅威なんですけど、生野区の場合は津波は来ないんですよ。ですので、実際に直下型地震が来たときに避難所の運営というのが非常に大きな大切な要素になります。今まで熊本であるとか、いろいろなところでの実際の避難所の運営のお話を聞くと、やはりご意見であったように、避難所は、基本的に地域の防災組織が運営するという形に大阪市ではなっております、やっぱり大切なのが、その避難所でどういうものが日々必要になるかっていう、それは食料品であったり、日用品であったり、いろいろなものなんですけど、それを具体的に何がどれだけというのを、システムティックにそれを集約できる体制ですね、それがないと、たくさんの物資が集まってくるんですけど、結局それがマッチングできないので、活用できないというのが一番の問題になりますので、是非ともそれが非常に大事な要素だと思うので、そういう体制づくりと進めたいと思っています。危機管理室に以前はアドバイザーがおりましたが、その危機管理室のアドバイザーの制度は無くなり、いまは生野区役所に防災のアドバイザーがいます。コロナでなかなか避難所の立ち上げ訓練も、今まではできなかったですが、コロナも明けたので、区役所のアドバイザーも是非一緒になって、地域の方々とそういう避難所の立ち上げ訓練を充実させていきたいと思っております。たくさん貴重なご意見をいただきまして感謝を申し上げます。

また、いろいろな形で皆様がたのご意見を、これ区政会議に限らず、いただきながらまいりましてやっていきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

#### ○三木議長

ありがとうございました。本日は令和5年度生野区の取組案について、委員の皆様から非常に活発な意見交換がなされたと思います。

区政会議は、我々委員が区民を代表して区政に参画する大切な場です。地域のまちづくり協議会などからご推薦された委員の方々につきましては、地域の皆様がたに本日の会議の様子をお伝えしていただきたいと思います。

それでは、最後に事務局から連絡事項があるようですのでお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

委員の皆様をはじめ、皆様お疲れ様でございました。少し連絡事項がございますので、次回の区政会議の開催についてでございます。次回は新年度に入って6月以降ですね、夏場にかけて第1回目の部会、あるいは全体会の開催を予定しております。

その際には、これまでの生野区の取組を振り返っていただいて、次の来年度の予算、令和6年度の予算に向けて、委員の皆様からまたご意見を伺いたいと考えてございます。

あともう一点お知らせがございまして、少し先のことになるのですが、現在の委員の皆様の任期ですね、これがいったんは本年9月末までということになってございますので、次に2期目になられる方の更新も含めまして、今後また新たに改選に向けた手続に入っていく予定になっております。また、具体的なご案内というのは、新年度に入ってから改めてさせていただきますので、またよろしくお願ひしたいと思います。

事務局からの連絡事項は以上でございます。

○三木議長

ただいま事務局から連絡ありましたように、次回は新年度に入って夏頃にかけて予定されていますので、委員の皆様よろしくお願ひいたします。

それでは、これをもちまして本日の区政会議全体会を終了いたします。委員の皆様大変お疲れ様でした。

(閉会)